

平成12年度における徳島県のおキシダント濃度について (第26報)

徳島県保健環境センター

中島 信博・立木 伸治

Oxidants Concentration in Tokushima Prefecture (XXVI)

Nobuhiro NAKAJIMA and Shinji TATSUKI

Tokushima Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences

Abstract

In 2000, in Tokushima Prefectural area, the total number of days when high concentration of oxidants (over 0.08 ppm) is observed reached 78 days. This occupies the 5th highest level in number of occurrence since the observation started. Oxidant Emergency Notices were announced officially in 2 days-July 20 and August 25, resulting in 6 successive years' appearance of the Notices.

A new measuring spot for air pollution observatory system, which is equipped at WAKIMACHI, had many days of very high concentration of oxidants. It ranked the third among all others about the total number of days beyond the standard.

Key words : オキシダント濃度 oxidants concentration, 緊急時報 (注意報, 警報) emergency reports (warnings and alarms)

I はじめに

徳島県における平成12年度のおキシダント緊急時報は、注意報2日(7月20日, 8月25日)の発令があった。注意報の発令は、平成7年度以降6年連続であった。警報の発令はなかった。

平成12年度のおキシダント高濃度(以下、特に注釈のない限り「0.08ppm以上」をいう。)発生日は78日で、昨年度の82日と比べほぼ横ばいであり、平成6年度以降60日から90日の間で推移している。

全国的な状況を見ると²⁾、注意報の発令延日数は259日(22都府県)であり、昨年度の100日(19都府県)と比較して大幅に増加しており、最近10年間では最高となっている。警報の発令はなかった。

ここでは、平成12年度のおキシダントの発生状況について報告する。

II 調査方法

1 測定地点

図-1に示すように17局で測定している。平成12年度から県西部の脇町局で測定を開始している。

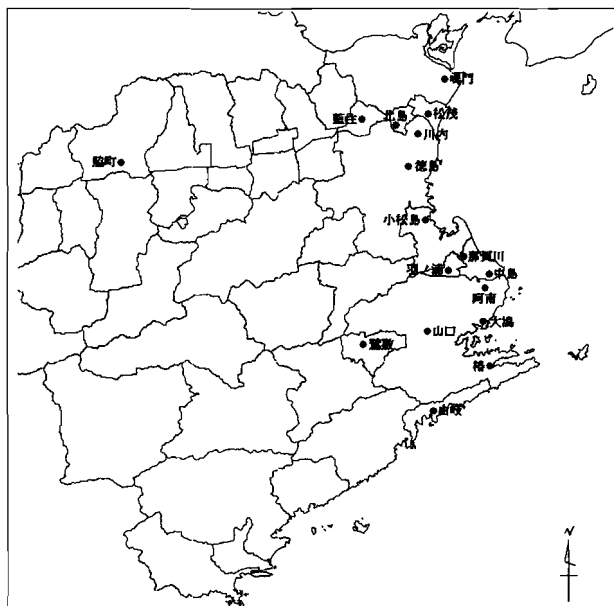


図-1 一般環境大気測定局位置図

2 測定方法

(1) オキシダント

東亜ディーケーケー(株)製 GXH-103型, GUX-113型(乾式:川内・中島局)又は(株)堀場製作所製 APOA-3600型

(乾式：脇町局)を使用。中性ヨウ化カリウム溶液を用いる吸光光度法又は紫外線吸収法。

(2) 風向・風速

光進電気工業(株)製 MVS-320型, MVS-350型微風向風速計又は(株)日本エレクトリック・インスルメント製 N-262LV-2R型微風向風速計を使用。

Ⅲ 調査結果及び考察

1 高濃度オキシダント等の発生状況

(1) 環境基準との対応状況

表-1に示すように、17局全局で環境基準(0.06ppm以下)を超える日がみられた。平成12年度において超過日数の多い上位3局は椿局(130日)、中島局(117日)及び脇町局(115日)であった。図-2で測定局別に過去5年間の超過日数を示しているが、昨年度と比較して、全局で減少している。その中でも特に減少が目立つ

表-1 局別・月別高濃度オキシダント等発生状況(平成12年度)

区分	0.06ppmを超えた日数									0.08ppm以上の日数									0.10ppm以上の日数									0.12ppm以上の日数														
	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計		
鳴門	21	22	6	15	10	7	1	5	87	1	2	2	6	1	4					16					1															0		
松茂	17	21	10	14	8	7	1	1	79	1	4	3	7	1	4					20				2	1														0			
藍住	20	17	5	11	7	4	1	1	66	1	1	3	3	1	2					11					1														0			
北島	23	26	10	13	4	4		2	82	3	10	4	4	1	2					24	1																		0			
川内	17	24	12	17	10	11	5	3	99	1	4	4	8	5	6					29				4	1	1													0			
徳島	8	15	6	10	6	6	1		52				4	1	1					6																		0				
小松島	21	23	6	11	7	6			74	1	5	2	6	1	1					16					1													0				
那賀川	25	28	11	14	7	9	4	9	107	3	9	2	4	1	4					23				2														0				
中島	24	28	18	20	11	11	4	1	117	5	9	7	12	4	7					44	3	1	5	1	2														3			
羽ノ浦	27	24	9	12	6	8		4	90	4	5	2	4	1	4					20				1														0				
阿南	27	29	11	14	8	9	3	4	105	10	10	1	5	1	4					31	2			2														0				
大渦	24	24	13	16	7	10	3	5	102	6	8	4	6	1	7					32			1	3														1				
山口	25	23	11	12	6	7	2	10	96	2	5	2	4	1	1					15				1														0				
椿	26	28	18	15	11	12	6	13	130	9	10	7	6	3	7					43	1	1	3	1	2														1			
鷺敷	15	15	5	8	4	5		4	56		1	1	3	1	1					7																		0				
由岐	29	28	14	13	7	12	3	2	108	11	10	6	7	1	6					41	3	1	1	3															0			
脇町	22	24	17	18	15	12	3	4	115	5	10	8	13	6	3	1				46			2	4	2														3			
計	371	399	182	233	134	140	37	68	1,565	63	103	58	102	31	64	1	2	0	424	3	8	6	30	8	8	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	6	2	0	0	0	0	8

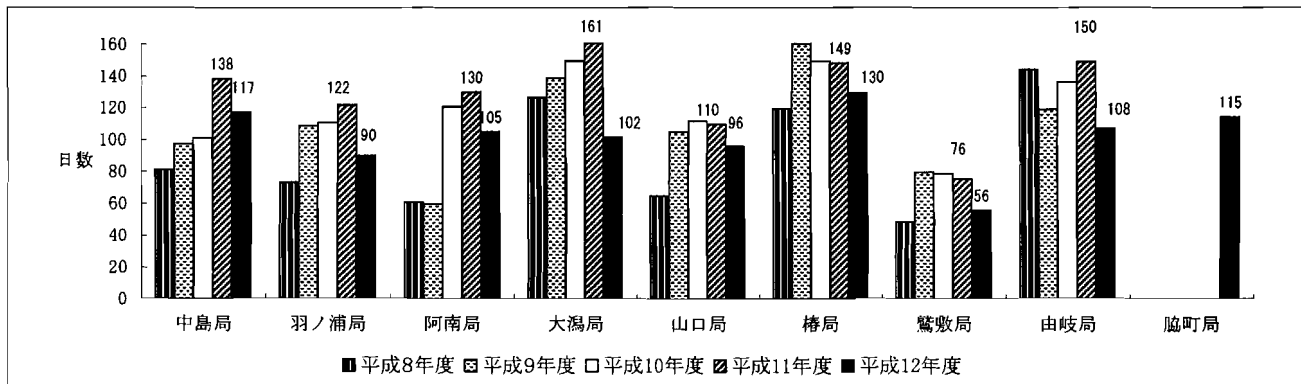
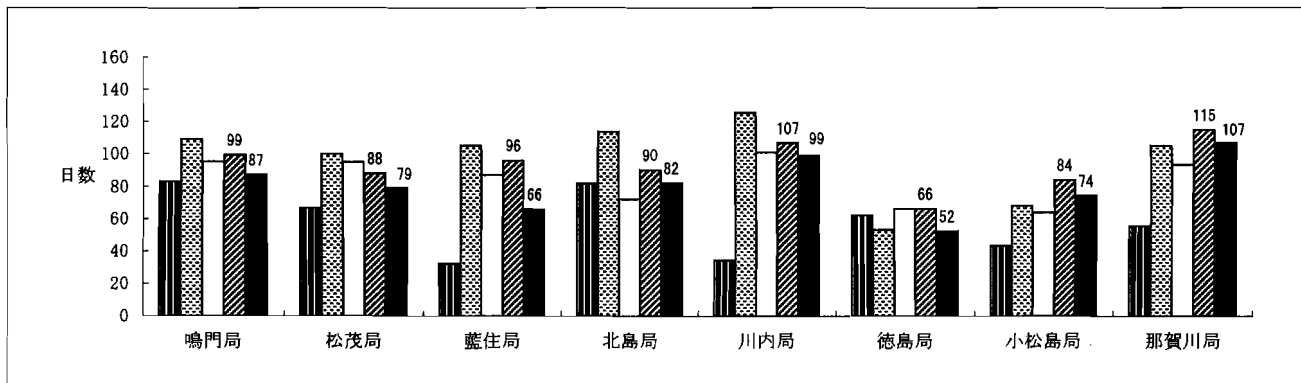


図-2 局別0.06ppmを超えた日数

表-2 月別高濃度オキシダント発生日の経年変化

区分	0.08ppm以上の日数										0.10ppm以上の日数										0.12ppm以上の日数									
	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計	4	5	6	7	8	9	10	3	他	計
平成2年度	1	2	5	4	8	2	1	2		25			1	2						3			1							1
3年度	2	4	2		3			2		13			1							1										0
4年度	7	7	9	6		3	1	2		35				2		1				3										0
5年度	7	8	2	2	3	1		2		25	1	1	1							3										0
6年度	10	7	8	7	6	4	7	11	1	61			2		1	1	1			5			1							1
7年度	22	22	20	7	12	4	2	1	1	91	2	5	5	5	5		1			23		1	1	2	1					5
8年度	7	16	7	5	10	8		7	1	61	1	5		1	3	2				12		2								2
9年度	20	13	13	7	10	8	8	9		88	4	2	3	2	7	1		2		21				1	2					3
10年度	14	15	13	10	15	9	3			79	3	8	3	4	7	6				31		2			6	3				11
11年度	12	22	6	9	3	9	5	12	4	82		11	1	4		3	2			21				1		3				4
10年間の平均	10.2	11.6	8.5	5.7	7.0	4.8	2.7	4.8	0.7	56.0	1.1	3.2	1.7	1.8	2.5	1.4	0.4	0.2	0	12.3	0	0.5	0.3	0.4	0.9	0.6	0	0	0	2.7
平成12年度	16	13	12	16	9	9	1	2		78	3	4	2	7	2	4				22				3	2					5

表-3 全国と大阪湾地域の注意報等の発令日数及び徳島県の高濃度発生日数の推移

年度	濃度レベル	全国	大阪湾地域	徳島県
	(0.12ppm以上)	(0.12ppm以上)	(0.12ppm以上)	(0.08ppm以上)
平成2年度		242	46	25
3年度		121	12	13
4年度		164	19	35
5年度		71	16	25
6年度		175	29	61
7年度		139	14	91
8年度		99	15	61
9年度		95	6	88
10年度		135	33	79
11年度		100	19	82
10年間の平均		134	21	56
12年度		259	51	78

注) 大阪湾地域:大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

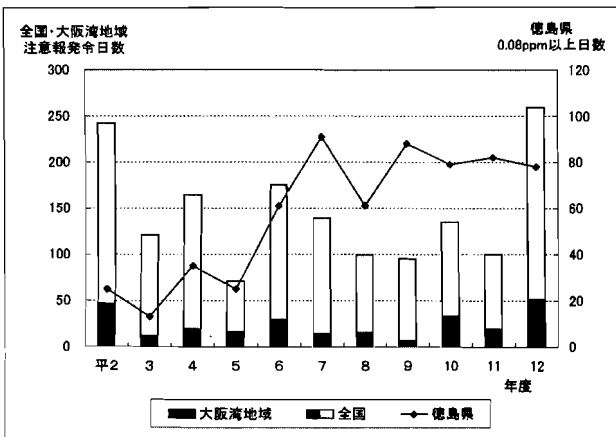


図-3 全国・大阪湾地域注意報等発令状況と徳島県の状況

局は、大湊局が59日減、由岐局が42日減、羽ノ浦局が32日減であった。超過日数が100日以上となったのは17局中7局と、昨年度(9局)よりやや減少している。

(2) 高濃度日の発生状況

① 発生日総数

表-2に示すとおり0.08ppm以上になった日数は78日、0.10ppm以上となった日数は22日、0.12ppm以上となった日数は5日あった。0.10ppm及び0.12

表-4 各都府県における注意報等発令日数の推移(平成3年~平成12年)

都府県	平成												12年度					
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
宮城							1			1								
福島										3			2	1				
茨城	19	14	7	14	16	10	9	5	11	23		2	5	8	7		1	
栃木	5	19	2	10	2	6	4	4	9	21		3	7	6	5			
群馬	2	9	8	18	16	18	8	6	4	16		3	7	4	2			
埼玉	14	19	4	19	13	10	16	12	18	40		5	8	12	14	1		
千葉	20	19	6	14	22	6	13	8	9	28		1	3	9	4	1		
東京	15	14	5	12	19	6	11	11	5	13		1	4	10	6	2		
神奈川	12	14	9	15	13	7	4	10	4	10			3	2	2	3		
富山					1													
山梨	9	20	7	8	5	4	2	7	6	14		3	3	5	3			
静岡	6	2	3	8	2	3	4	6	2	9		1	2	2	1	3		
愛知	2	1		1					1									
三重	1	4		9	2	1	1	2	1	9		1	4	1	3			
滋賀	3	9	1		1				1	2	3		2	1				
京都		7		1		1	1	3	1	3			3					
大阪	8	11	11	15	8	10	3	25	11	23		2	3	6	6	6		
兵庫	4	1	4	13	3	4	2	4	7	17		1	4	5	4	3		
奈良			1		3				1	8			3	1	4			
和歌山					1	1	1	1	1	2						2		
岡山		1	2	6	6	3	4	4	2	1					1			
広島	1			9	3	6	4	15	3	8		1	2	2	2	1		
山口									2	1	5		1		1	2	1	
徳島						3	2	3	6	3	2				1	1		
香川					1													
愛媛			1	1					3	1	1							
福岡							1	1										
計	121	164	71	175	139	99	95	135	100	259	0	28	64	76	67	23	1	

ppm以上となった日数は昨年と比べてやや増加しているもののほとんど横ばいであった。

全国の状況は、表-3、4及び図-3に示すとおりである。平成12年度の全国の注意報等の発令延日数は259日、大阪湾地域では51日であり、過去10年間の全国平均134日、大阪湾地域での平均21日より大幅に増加している。平成12年度の発令最多都府県は埼玉県の40日、次いで茨城県と東京都と大阪府の23日であった。

過去の状況と比べると、全国の地域で大幅に増加している。表-4に各都府県における注意報等発令日数の推移を示す。

表-5 高濃度オキシダント発生時刻と時間数 (平成12年度)

時刻(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計
発生時刻延回数	-	3	0	0	2	0	1	0	3	3	5	31	72	97	91	56	37	20	5	0	0	0	1	1	428
(%)	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0	0.7	0.7	1.2	7.2	16.8	22.7	21.3	13.1	8.6	4.7	1.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	100.0
発生中延時間数	-	3	1	0	2	0	3	2	6	8	13	44	108	190	247	254	244	178	83	39	24	19	14	7	1,489
(%)	0.0	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.1	0.4	0.5	0.9	3.0	7.3	12.8	16.6	17.1	16.4	12.0	5.6	2.6	1.6	1.3	0.9	0.5	100.0

(注) 1 表中「発生時刻延回数」とは、当該時刻において初めて高濃度(0.08ppm以上)となった局数の年間合計を示す。
 2 表中「発生中延時間数」とは、当該時刻において高濃度である局数の年間合計を示す。

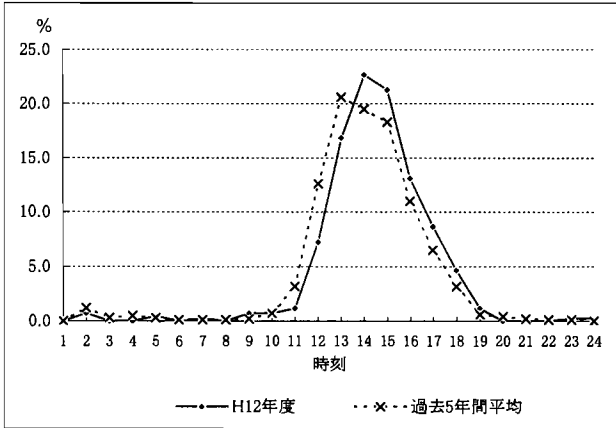


図-4 発生時刻延回数

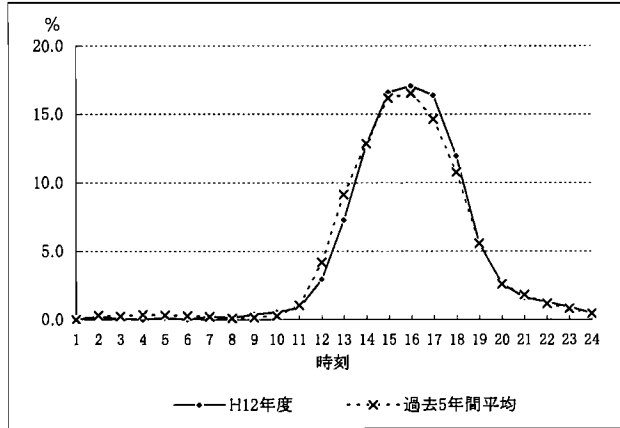


図-5 発生中延時間数

② 月別(17局全局)発生日数

表-2に示すとおり、平成12年度の県下全体の高濃度発生日数を月別にみると4月=7月>5月>6月>8月=9月>3月の順である。高濃度発生日数は過去10年間の平均と比較すると、7月がほぼ3倍、9月がほぼ2倍、4、6月がほぼ1.5倍と多くなっている。また0.10ppm以上発生日数は過去10年間の平均の約2倍で7月が約4倍となっているのが目立つ。0.12ppm以上発生日数は約2倍となっている。

全国の注意報の発令状況(表-4)においても、平成12年度は、6月に64日、7月に76日、8月に67日発令されておりシーズン3ヶ月で全体の80%を占めている。

③ 局別発生日数

局別に高濃度日数を見ると、表-1に示すとおり、上位5局は脇町局>中島局>椿局>由岐局>大渦局となっており、南部区域での発生が目立つが、新しい測定場所の脇町が1位なのが特徴となっている。

④ 発生時刻と時間数

表-5に示すとおり、初めて高濃度となった発生時刻延回数は、14時>15時>13時>16時の順であり、発生中延時間数は、16時>15時>17時>14

時となっている。

平成12年度と過去5年間平均を比較すると、図-4、5に示すとおり、発生中延時間はほとんど同じである。一方発生時刻は、ピーク時間が14時に約23%と、5年間平均より1時間遅く高濃度となっている。

2 高濃度オキシダントと気象の関係

(1) 天候との関連

平成12年度の高濃度発生日の天候は、表-6に示すとおりで、「当日・晴」が約70%あり、曇が約30%と昨年

表-6 高濃度オキシダント発生前3日間及び当日の天候 (平成12年度)

天候	晴	曇	雨	計
3日前(6時~18時)	38(49)	29(37)	11(14)	78
(18時~2日前6時)	37(47)	32(41)	9(12)	78
2日前(6時~18時)	39(50)	30(38)	9(12)	78
(18時~1日前6時)	45(58)	24(31)	9(12)	78
1日前(6時~18時)	50(64)	20(26)	8(10)	78
(18時~当日6時)	56(72)	18(23)	4(5)	78
当日(6時~18時)	54(69)	23(29)	1(1)	78

(注1) 徳島地方気象台の観測データに基づき作成したものである。

(注2) かつこ内は百分率(%)を示す

表-7 高濃度オキシダント発生と日照時間 (平成12年度)

日照時間	0~0.9	1~1.9	2~2.9	3~3.9	4~4.9	5~5.9	6~6.9	7~7.9	8~8.9	9~9.9	10以上	計
日数	4	1	3	1	1	1	4	6	4	14	39	78
(%)	5.1	1.3	3.8	1.3	1.3	1.3	5.1	7.7	5.1	17.9	50.0	100.0

(注) 徳島地方気象台の観測データに基づき作成したものである。

度と同様の傾向であった。日照時間は表-7、図-6に示すように、7時間以上が80%あった。

また、月別の気温・降水量・日照時間からみると³⁾、表-8、図-7~9に示すとおりである。平成13年1月から3月までは、従来と平年値が変わっており、月平均気温では約0.5℃上昇しているが、年間を通して4月と

1月が平年値より低かった他は、0.1~1.5℃平年値より高くなっていた。また降水量は、4月から8月までは平年値より少なく、特に8月は平年の23%、7月は30.2%であった。

(2) 風向・風速との関連

高濃度発生時の風向は表-9に示すとおり、多い順に

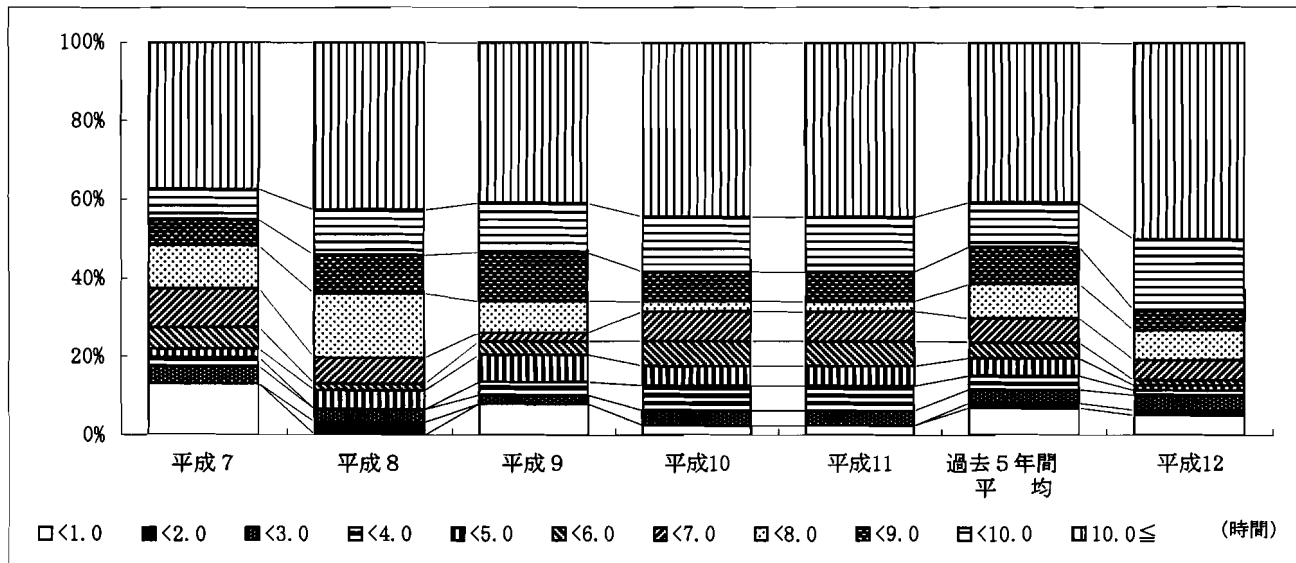


図-6 高濃度オキシダント発生と日照時間の経年変化

表-8 平成12年度 月別気象状況

項目 月	気温(℃)				降水量(mm)				日照時間(hr)			
	12年度	平年値	平年との差	平年比(%)	12年度	平年値	平年との差	平年比(%)	12年度	平年値	平年との差	平年比(%)
12年4月	14.2	14.3	-0.1	99.3	57.5	130.9	-73.4	43.9	189.7	173.3	16.4	109.5
5月	19.5	18.6	0.9	104.8	116.5	136.6	-20.1	85.3	211.4	191.6	19.8	110.3
6月	22.2	22.1	0.1	100.5	134.0	229.6	-95.6	58.4	116.0	147.8	-31.8	78.5
7月	27.1	26.1	1.0	103.8	51.0	168.6	-117.6	30.2	203.0	190.2	12.8	106.7
8月	28.4	27.2	1.2	104.4	41.0	178.4	-137.4	23.0	289.9	213.3	76.6	135.9
9月	24.9	23.7	1.2	105.1	432.5	307.8	124.7	140.5	179.0	150.9	28.1	118.6
10月	19.6	18.1	1.5	108.3	184.0	141.7	42.3	129.9	124.0	158.2	-34.2	78.4
11月	14.4	12.9	1.5	111.6	104.0	96.9	7.1	107.3	117.6	145.9	-28.3	80.6
12月	8.6	7.9	0.7	108.9	42.5	37.9	4.6	112.1	159.2	154.1	5.1	103.3
13年1月	5.2	6.0	-0.8	86.7	92.0	42.6	49.4	216.0	141.7	155.3	-13.6	91.2
2月	6.5	6.1	0.4	106.6	24.5	57.1	-32.6	42.9	135.6	147.4	-11.8	92.0
3月	9.8	9.2	0.6	106.5	63.0	85.4	-22.4	73.8	195.4	167.6	27.8	116.6

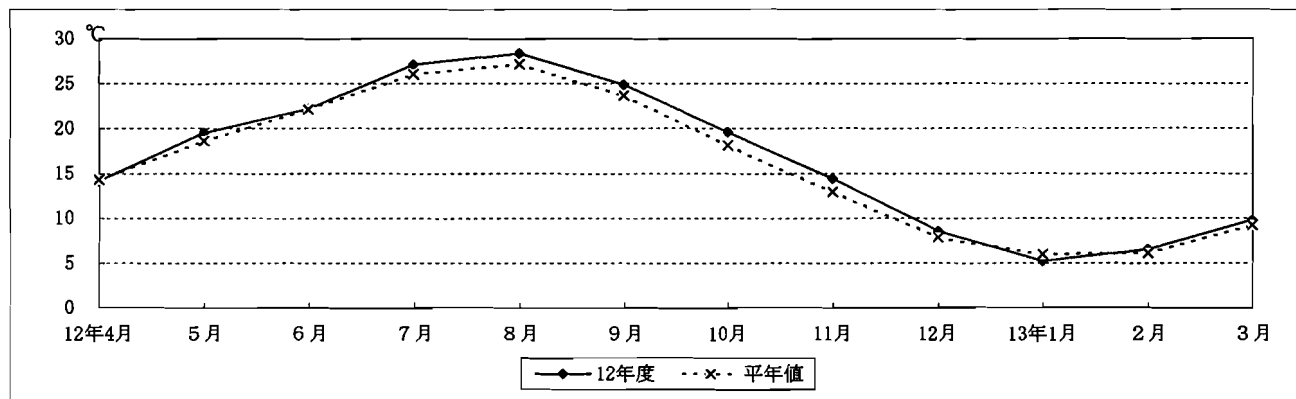


図-7 気温の状況

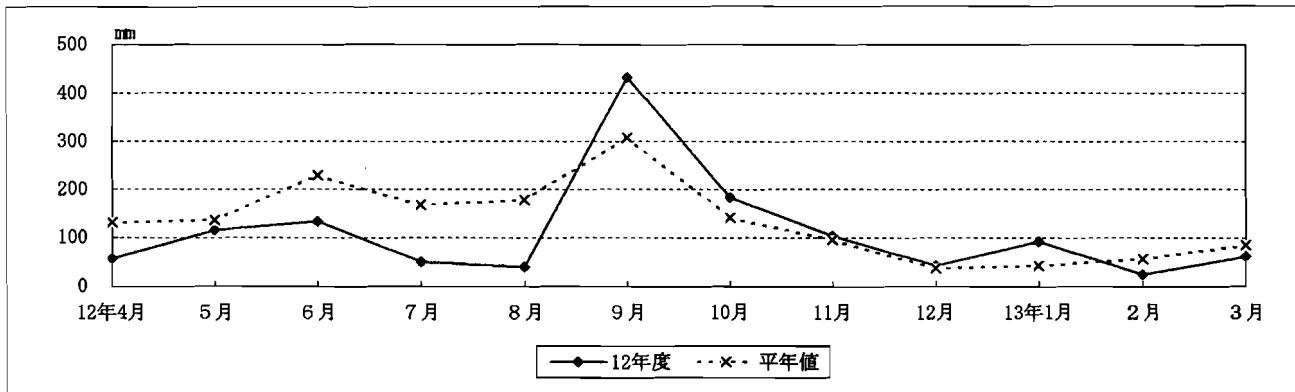


図-8 降水量の状況

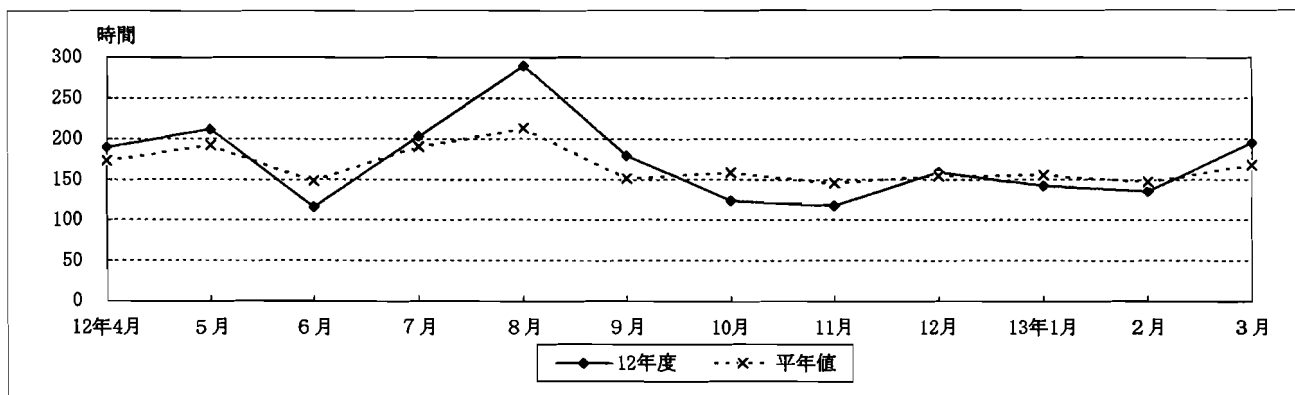


図-9 日照時間の状況

表-9 高濃度オキシダント発生時の風向頻度 (時間数)

(平成12年度)

局名	風向	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	主風向	
鳴門		6	1	1				6	8	2	1						6	NNW~N, SE~S	
松茂		11	4			4	18	8	1	2					2	1	4	NNW~NNE, E~SE	
藍住		5	1	4	2	6	6											N~ESE	
北島		4	2	1	3	13	20	6	8	3		1					3	NNW~S	
川内		14	7	2	4	15	42	14	3							1	4	NNW~SSE	
徳島				1	1	3	3	6	1									E~SE	
小松島		1	2	2	2	9	12	1	11	4	1						1	NNE~S	
那賀川		3	3	7	10	5	5	10	11	16	2					1	3	NNW~SSW	
中島		16	9	6	6	21	19	12	29	37	8	2	1	2			6	NNW~E~SW	
羽ノ浦		1	7	6	7	5	8	5	1	12	5					1	1	NNE~SSW	
阿南		7	6	6	1	3	6	11	20	44	30	3	1	1	1	1	1	N~E~SW	
大渦			3	2	13	8	26	9	7	16	12	6	6	1	2			NNE~E~S~WSW	
山口		1	5		4	6	1	1		7	18	4					1	NNE~E, S~SW	
椿		1		2	11	41	20	7	15	40	15	12	12	7			2	NE~S~W	
鷺敷			1			6	3	2	1							1	1	E~SE	
由岐		12	11	5	7	6	1	3	12	10	29	47	11				2	5	NW~E~WSW
脇町		2	7	6	61	61							3	25	1	2	1	WSW~W, NNE~E	
計		84	69	51	132	212	190	101	128	193	121	75	34	36	7	12	37	ENE~SSW	
(%)		5.7	4.7	3.4	8.9	14.3	12.8	6.8	8.6	13.0	8.2	5.1	2.3	2.4	0.5	0.8	2.5		

E (14.3%), S (13.0%), ESE (12.8%), ENE (8.9%) となり、E~Sの90°の方位で55.5%を占めている。今回初めて、脇町局のデータが入ってきたが、地形的なことからENEとEの2方向の比率が大幅に増加している。

高濃度発生時の風速は表-10、図-10に示すとおり、1.0~3.9m/sが中心で72.7%を占め、6.0m/s以上は4.7%になっている。過去5年間の平均割合も1.0~3.9

m/sが中心であり、平成12年度は過去5年間平均値とほぼ同様の傾向を示している。

3 オキシダント濃度の状況

(1) 全体 (17局全局)

全局の昼間の日最高値の年平均値は、表-11、図-11に示すとおり平成12年度は0.048ppmで、平成7年度以

表-10 高濃度オキシダント発生時の風速頻度 (時間数)
(平成12年度)

風速 局名	0.0 ~ 0.9 m/s	1.0 ~ 1.9 m/s	2.0 ~ 2.9 m/s	3.0 ~ 3.9 m/s	4.0 ~ 4.9 m/s	5.0 ~ 5.9 m/s	6.0 m/s 以上
	鳴門	2	6	10	9	3	1
松茂	6	13	21	13	1	1	
藍住	1	13	9	1			
北島	4	9	21	16	9	2	3
川内	5	18	39	17	14	7	6
徳島		4	5	4	1	1	
小松島	17	12	4	5	6	2	
那賀川	4	19	20	13	8	3	9
中島	8	26	54	31	21	16	18
羽ノ浦	1	14	20	9	2	9	4
阿南	3	27	41	21	18	9	22
大湊	8	43	37	19	2	2	
山口	1	18	10	10	5	4	
椿	12	46	55	45	21	6	1
鷺敷	5	8	2				
由岐	15	57	59	22	7	1	
脇町	2	11	42	50	47	11	6
計	92	338	439	276	162	74	69
(%)	(6.3)	(23.2)	(30.3)	(19.2)	(11.1)	(5.1)	(4.7)

降では最低である。月平均値を5年間平均値と比較すると、4・5・7月が5年間平均値を上回った他は、全て5年間平均値を下回っている。今年は5月と9月に極大を示し、8月と11・12月に極小を示す二山型がからうじて見られる。

(2) 北部地域(鳴門局~小松島局・脇町局)と南部地域(那賀川局~由岐局)

北部地域の昼間の日最高値の年平均は、表-12、図-12に示すとおり、平成12年度は0.046ppmであった。これは過去5年間平均値とほぼ同じであった。月別では、5月が一番高く0.067ppmを記録した。5年間平均と比べると4月~7月において高く、8月以降は低くなっている。

同様のことを、南部地域で比較すると、表-13、図-13に示すとおり、昼間の日最高値の年平均は0.050ppmで、過去5年間では最低であった。月別では北部と同じく5月が最も高く0.071ppmを記録し、逆に8月は5年間平均より0.008ppm低い0.041ppmとなっている。

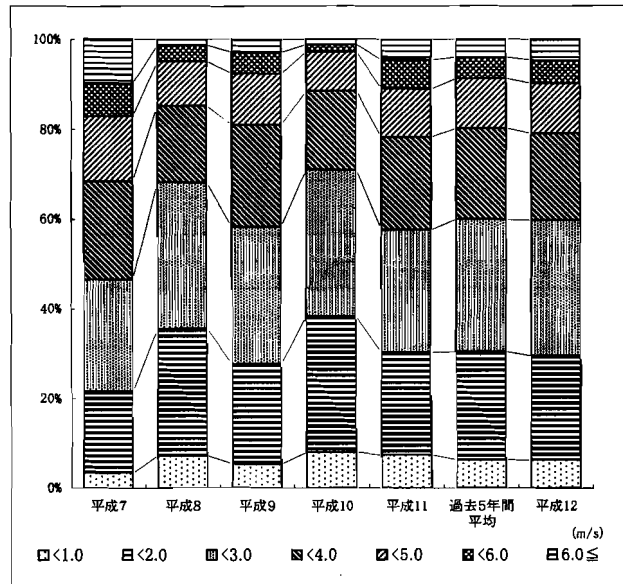


図-10 高濃度オキシダントと風速別出現頻度

北部、南部地域とも同様の傾向を示しているが、南部の方が極大と極小がはっきり出ている。

IV まとめ

- 1 本県の平成12年度の高濃度オキシダント発生日数は78日であり、平成11年度の82日と同様に高水準であり、過去5番目であった。
全国的平成12年度の注意報の発令日数は259日であり、過去10年では最高であった。
- 2 本県の平成12年度の注意報の発生は7月と8月に各1日の2日あった。また、平成7年度から6年連続であった。
- 3 オキシダントの昼間の日最高値の年平均値では、真夏の

表-11 全局のオキシダント昼間の日最高値の月平均値

年度等	月												平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
平成7年度	0.067	0.066	0.060	0.044	0.052	0.052	0.047	0.040	0.037	0.041	0.047	0.052	0.050
平成8年度	0.061	0.065	0.046	0.036	0.048	0.050	0.042	0.038	0.038	0.044	0.050	0.053	0.048
平成9年度	0.065	0.064	0.058	0.044	0.051	0.049	0.055	0.041	0.038	0.039	0.042	0.060	0.051
平成10年度	0.060	0.065	0.056	0.055	0.061	0.055	0.046	0.042	0.038	0.040	0.048	0.048	0.051
平成11年度	0.066	0.077	0.053	0.044	0.037	0.048	0.057	0.047	0.042	0.039	0.050	0.060	0.052
過去5年間平均	0.064	0.067	0.055	0.045	0.050	0.051	0.049	0.042	0.039	0.041	0.047	0.055	0.050
平成12年度	0.066	0.069	0.055	0.056	0.042	0.047	0.042	0.033	0.033	0.037	0.039	0.051	0.048

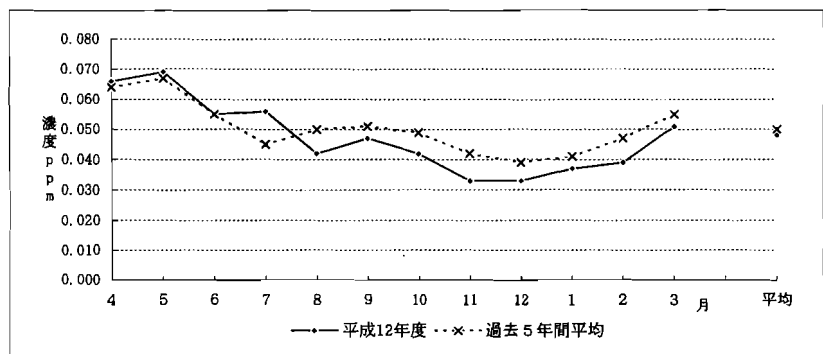


図-11 全局のオキシダント昼間の日最高値の月平均値

表-12 北部のオキシダント昼間の日最高値の月平均値

単位：ppm

年度等 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
平成7年度	0.071	0.068	0.061	0.043	0.051	0.054	0.047	0.046	0.042	0.045	0.052	0.055	0.053
平成8年度	0.064	0.067	0.047	0.037	0.048	0.053	0.048	0.041	0.041	0.047	0.053	0.056	0.050
平成9年度	0.068	0.066	0.059	0.043	0.048	0.049	0.057	0.043	0.040	0.041	0.043	0.062	0.052
平成10年度	0.064	0.067	0.059	0.057	0.061	0.056	0.049	0.046	0.042	0.045	0.054	0.053	0.054
平成11年度	0.069	0.080	0.055	0.045	0.036	0.048	0.059	0.049	0.045	0.042	0.052	0.064	0.054
過去5年間平均	0.067	0.070	0.056	0.045	0.049	0.052	0.052	0.045	0.042	0.044	0.051	0.058	0.053
平成12年度	0.070	0.071	0.057	0.057	0.041	0.049	0.045	0.035	0.035	0.039	0.041	0.054	0.050

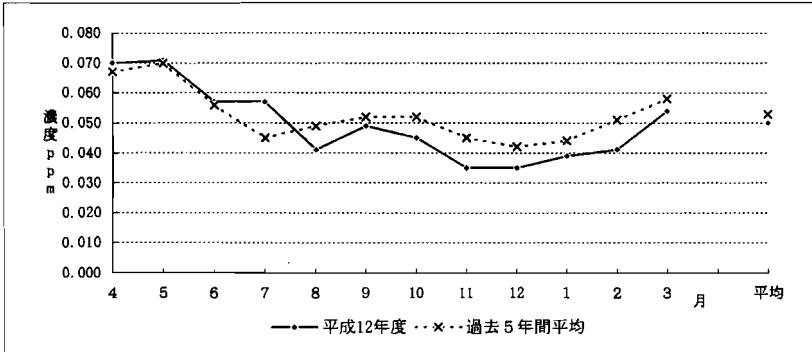


図-12 北部オキシダント昼間の日最高値の月平均値

表-13 南部のオキシダント昼間の日最高値の月平均値

単位：ppm

年度等 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
平成7年度	0.063	0.064	0.060	0.045	0.052	0.050	0.047	0.034	0.032	0.036	0.042	0.049	0.048
平成8年度	0.057	0.063	0.043	0.035	0.047	0.046	0.033	0.034	0.033	0.041	0.047	0.048	0.044
平成9年度	0.061	0.062	0.057	0.044	0.055	0.048	0.053	0.038	0.034	0.036	0.040	0.057	0.049
平成10年度	0.055	0.063	0.052	0.052	0.062	0.054	0.043	0.037	0.033	0.035	0.041	0.042	0.047
平成11年度	0.062	0.074	0.050	0.043	0.037	0.047	0.054	0.043	0.039	0.034	0.047	0.055	0.049
過去5年間平均	0.060	0.065	0.052	0.044	0.051	0.049	0.046	0.037	0.034	0.036	0.043	0.050	0.047
平成12年度	0.063	0.067	0.054	0.055	0.044	0.045	0.040	0.032	0.030	0.036	0.037	0.048	0.046

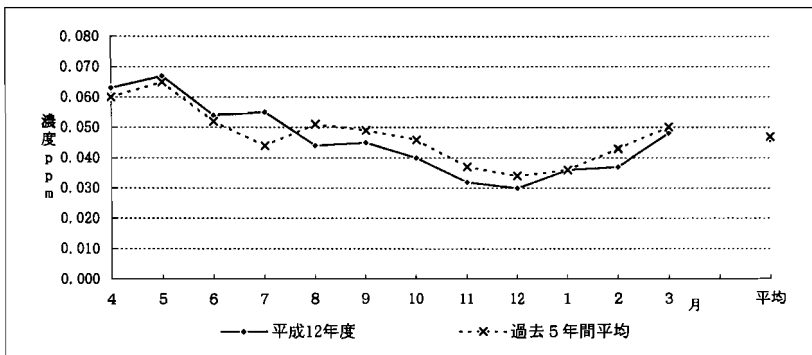


図-13 南部のオキシダント昼間の日最高値の月平均値

太平洋高気圧の張り出しが強い時は、8月に極小がはっきり現れる二山型になるが、平成12年度は5月が一番高く11、12月が一番低い一山型を示している。

- 新しい測定局である「脇町局」の濃度が高く、高濃度日数で3位以内に入っている。今後、内陸部の高濃度オキシダント濃度に注意する必要がある。
- 本県における高濃度オキシダント発生日数は増加傾向にあり、降雨の周期等の気象条件によっても注意報レベルの濃度になる可能性があるため、今後とも注意を要する。

文 献

- 1) 中島信博他：徳島県保健環境センター年報，18，23-30（2000）
- 2) 環境庁大気保全局企画課広域大気管理室：光化学大気汚染関係資料，平成12年
- 3) 徳島地方気象台：徳島県の気象，平成12年4月～平成13年3月